



はなみずき

成生小学校 学校だより
令和8年3月19日 No.15
校長 渡邊 隆

今年度をふりかえって

今年度は新たに、学校教育目標を「自ら学び ともに支え合い 可能性へ挑み続ける子供の育成」として取り組みを進めてきました。また、それぞれの学年・学級においても、学校教育目標を踏まえて学年及び学級教育目標を立て、それぞれに取り組みを行ってきました。その中で、子供たちの課題意識を表出させ、自分たちでつくった学級目標を掲げたり、日々の学習や活動について学期ごとの振り返りを行ったりしながら取り組んできました。このように、目標を立てて行動することによって、今の学校及び子供の状況がはっきりとしていきます。何が達成できたのか？また、何が足りなかったのか？どうすれば改善できていくのか？など、次への手立てを講じていきながら、変容していく自分を感じることができました。

次に、実際に子供たちの様子と重ねてみたいと思います。一つめの「自ら学ぶ」という姿については、個人探究などでの活動が挙げられます。自分の取り組みたい課題を自分の責任で行っていくので、誰からも指示されることなく、自分の思いや願いを優先して始めることとなります。また、日頃感じている疑問などを膨らませて解決したいという思いにつながっていくことも大切になります。二つめの「ともに支え合う」という姿ですが、修学旅行や宿泊学習などにおいて、自分たちが計画したことについて、グループ全員で役割を担い、それぞれが責任をもって取り組んだことが挙げられます。特に、宿泊学習の炊飯活動では、日暮れ前に合わせて炊事の係、食材の係など、それぞれがしっかりと取り組むことで、おいしい食事にたどり着くことができます。グループのみんなが互いにかけてあげのない存在となったことを実感できる時です。三つめの「可能性へ挑み続ける」姿については、さまざまな活動において、自分でこうしたい、あのようになりたいと思いながら、こだわりをもって粘り強く活動することとつながりがあります。鉄棒運動でやりたい技を繰り返してできていったことや、九九の暗唱をあきらめずに行ったことでやり遂げた達成感など、自分の持っている力を信じて活動し続けることで実感が伴っていきます。

このように、日々の子供たちの様子を具体的な姿に置き換えて学習や活動を行うことで、学年・学級教育目標でめざした姿に近づいていくこととなります。今年一年間、成生小の子供たちは、自分のめあてを達成していきながら、講堂に掲げた学校教育目標の姿に重なるところをたくさん見せることができていたと感じています。来年度も引き続き、子供たちの力をより向上させられるように努めていきたいと思っています。

修了式

3月19日に、今年度すべての学年において、それぞれの学習が修了したことを証する、修了式を行いました。今回は代表として、5年押野こはなさんと6年高橋勇翔さんからの発表がありました。こはなさんは、5年生になって努力し、算数を得意な教科にしたこと、そして、6年生となる来年への期待を語りながら、自分の役割や責任を自覚して楽しんでいきたいと抱負を伝えていました。また、勇翔さんは、中学校のあいさつ運動の取り組みを聞いて、今からあたり前にできるように頑張っていること、そして、自立していくために、人任せにせず自分で行動できるようにし、やるべきこと、協力すべきことをよく考えて行動していきたいと語っていました。次年度への見通しを持ちながら、1年間頑張った自信が意欲的な姿につながったと思われます。聞いていた全校生も、自分のことを振り返りながら成長できたことを振り返っていました。



卒業式全体学習

3月13日(金)に、全校生が講堂に集合して、卒業式全体学習を行いました。教務主任の伊藤先生の指導のもと、卒業生の入場からはじめて、拍手の仕方、式の中でのお辞儀、歌のときの所作等も含めて、全体を通す学習です。卒業生となる6年生の所作をお手本に、5年生以下の人たちの様子を6年生に見てもらいながら、互いに式典に臨む気持ちを姿勢やお辞儀で表すことに集中していました。卒業式は、6年生との最後の時間となります。その大切な時間をどのように思い、どのような姿として自分が参加するのかをイメージしながら取り組む様子が見られました。20日の式典当日は、子供たちの思いのこもった歌声と晴れやかな姿をご覧いただけたと思います。



6年生を送る会

2月27日(金)、3月が身近に迫るこの日、これまで成生小学校の機関車として頑張ってきた6年生を送る会が、5年生の企画のもと行われました。当日は、6年生の入場からはじまり、縦割り班ごとの絵しりとりゲーム、1年生から5年生までのメッセージが入った色紙の贈り物、そして、6年生からの各学年への贈る言葉が入った模造紙が贈られました。今回集まった仲間は、来年度も同じように集うことはできません。かけがえのない時間を過ごしたことを思い出にして、6年生は卒業へ、5年生以下の人たちは次の学年へと進学・進級していくことになります。



3月の表彰

- 《天童市スポーツ協会表彰》殊勲賞(柔道) 6年 宇田 沙也乃さん
奨励賞(水泳) 4年 清野 全さん 6年 清野 未華さん
- 《川をきれいにする児童図画》銅賞 4年 後藤 和一郎さん
- 《天童市立図書館読書感想画展》入選 1年 奥山 陽日さん 押野 蒼空さん
2年 押野 玖春さん 千葉 穂茅さん 3年 河原 かほるさん 立里 礼桜さん
4年 押野 永怜奈さん 工藤 月音さん 奥山 未来さん 東海林 由依さん
5年 安西 一葵さん 押野 真緒さん 6年 清野 未華さん 清野 奏美さん
- 《天童市教育委員会優秀児童褒賞》(水泳) 4年 清野 全さん 6年 清野 未華さん



サケの稚魚放流

3月10日(火)に、学校付近の押切川の橋のたもとで、2年生がサケの稚魚放流を行いました。当日は、日頃お世話になっている見守り隊の国井さんからお話をいただいた後、川の脇の河川敷に降りて、各々のバケツにサケの稚魚を入れてもらい、一斉に放流を行いました。橋の下流域は、川底が浚渫されていて歩きやすく、長靴で入っていても安心して放流をすることができました。今回放流したサケについては、4年後の6年生の時に改めて遡上観察会を行う予定です。清野さんや奥山公民館長さんなど、地域のみなさんのご協力によって貴重な体験ができています。子供たちにとって、サケがのぼる美しい押切川を大切に作るきっかけになったと思われます。

